

## 8月9日(土) 平和祈念式典に参列

### 草島

参列した、式典には、赤ちゃんから高齢者まで、いろいろな年代の人や世界各地の人が多く参列していました。そこでは代表者が、様々なスピーチをしてくれました。会場にいと、全員が「世界平和」を望んでいることが伝わってきました。

心に残ったことは、「核兵器のない世界の実現」という言葉です。この世界には、まだたくさんの核兵器が存在し続けていること、今、この瞬間も戦争をしている国があることを思いました。

### 中井

私は、式典でとても印象に残ったのは、被爆者代表の西岡洋さんの『平和に繋がるこの動きを絶対に止めてはいけない、さらに前進させよう、そして、仲間を増やしていくことが、私たちが目標とすることです。』という言葉でした。この動きというのは、日本原水爆被害者団体協議会が2024年にノーベル平和賞を受賞し評価されたことによって、世界中の人々が見ているこの機会に、核兵器廃絶をいっしょに求めていることだと思いました。私自身も行動し続け、平和と一緒に訴え続けてくれる仲間を増やしていこうと思いました。



## 平和の泉(公園内)

### 草島

平和の泉には、9才で被爆した少女の手書き文字が彫られていました。「…のどが乾いてたまりませんでした。水には、あぶらのようなものが一面に浮いていました。どうしても水が欲しくてとうとうあぶらの浮いたまま飲みました。一あの日のある少女の手記から」という文章です。読んでいて、どうしてもこの子に水を渡してあげたい、そう強く感じました。こんな思いをする子が、どこにもいない、平和な世界であってほしいと思いました。



## 戦後・被爆80年

## 2025(令和7)年 折り鶴平和大使のナガサキ日記



川西市では、「非核平和都市宣言」の趣旨にのっとり、市民平和推進事業として、2025年度は長崎への「折り鶴平和大使」派遣事業を実施しました。

今年度の折り鶴平和大使に公募で選ばれたのは、牧の台小学校6年の草島采和さんと川西南中学校1年の中井紗映さんです。

2人の大使は、8月9日に長崎市で開催された平和祈念式典に市民の代表として参列するとともに、市民が平和の願いを込めて折ったリンドウ色の折り鶴を平和公園内にある「折鶴の塔」に捧げました。

ここでは、2人の大使の派遣後の活動報告を掲載します。



※市民が折った約1万4千羽の折り鶴

## 7月28日(月) 市役所にて壮行式

### 中井

折り鶴平和大使として出席した壮行式では、川西市民が心を込めて折った折り鶴を越田市長から受け取り、それを代表して長崎へ届け、平和を願う、という、とても重要な役目を担っていることに、身が引き締まりました。



## 8月8日(金) 長崎到着

### 草島

初めに平和公園に行きました。公園内に建てられている男の人の銅像(平和祈念像)の顔は被爆者を追悼し、上に指している手は原爆のことを指し、横になっている手は世の中の平和を意味しているそうです。銅像の部分ごとにも意味があることを初めて知りました。とても多くの願いを背負っているんだな、と感じました。



## 折り鶴平和大使になって

### 草島

折り鶴平和大使として2日間、長崎に行ってきたことは、これまで以上に戦争や原爆の恐ろしさや、平和や命の大切さを知ったこと、語り継ぐことの大切さです。

私自身も、ひいおばあちゃん、おばあちゃん、母、私へと、語り継がれたことで、ひいおばあちゃんが、原爆のきのこ雲を見ていたことを知りました。色々な人が多くの人に語り継ぐことにより、80年という長い間、原爆は忘れられず、記憶され、世界を平和にする活動が行われています。

しかし、戦後80年がたった今も、なぜ、世界から核兵器がなくなるのか?疑問に思いました。どうしたら、世界から、戦争や核兵器をなくすことができるのか、これからも考え続けていきたいです。

### 中井

私が今回、長崎に実際に行き感じたことは、長崎の人々の「祈り」とは、まず原子爆弾の犠牲者への心からの追悼のことであり、加えて、核兵器のない世界を願うことだと思いました。

また、被爆者の方々が常に語っている『核のない世界を目指しましょう。核兵器を使ってしまうとすべてが終わってしまいます。』は、原子爆弾の悲惨さや平和の尊さを次世代に伝えようとしていると改めてわかりました。

私は折り鶴平和大使として、まず家族や身近な友人に、今回長崎で見たことや感じたことを伝えました。そして、川西市民に長崎の原爆被害や祈りについて知ってもらうために活動していきたいです。

## 非核平和都市宣言

世界中の人々が等しく平和な暮らしを営むことは、人類共通の願いです。

それにもかかわらず、地球上の全生命を滅ぼしてもなお余ほどの核兵器が蓄積され、世界の平和に深刻な脅威を与えています。

わが国は世界で最初の核被爆国として、核兵器と戦争の恐ろしさを全世界に訴え、その惨禍を絶対に繰り返させてはなりません。

私たちは祖先から受け継いできた猪名川の清流、豊かな緑、そして人類共通の財産である青く美しい地球を永遠に守り続けていくためにも、核兵器をつくらず・持たず・持ち込ませずの「非核三原則」を遵守するとともに、恐るべき核兵器の廃絶を願い、人と人が憎しみあい傷つけあうことのない世界の創造を求めて、ここに市民の総意のもと、川西市を「非核平和都市」とすることを宣言します。

平成元年(1989年)7月14日 川西市

## 折り鶴を捧ぐ

### 中井

折り鶴を奉納する場所には、数えきれないほどの折り鶴がありました。幼稚園など小さい子から、原子爆弾を経験した高齢者まで、日本中、いえ世界中から折り鶴が捧げられていました。そして私は、千羽鶴に込められた思いを川西市から伝えていこうと思いました。

折鶴の塔に捧ぐ2人▶



## 長崎原爆資料館などを見学

### 草島

原爆資料館では、特に印象的だったのは、4年生の男の子の「お母さんを焼いた運動場」という文章です。被爆して亡くなったお母さんを火葬した場所で、黒い炭のかけらを見つけた、という話でした。そこからは、死んでしまったお母さんに会いたいという気持ちがとても伝わってきました。自分の通っている学校で、たくさんの人が亡くなり、焼かれる、おかあさんともお別れをする、ということ想像するだけで、胸が苦しくなり言葉にならない思いになりました。



### 中井

資料館の展示物を見つめて3時間。広島資料館で見たものと同じくらい残酷で悲惨なものがありました。そのうちのひとつが「手の骨とガラス」です。

これは、人間の手の骨とくっついたガラスの塊が、爆心地付近で見つかったものです。それを見ていると、その人がなぜこんな目にあって亡くならなければならなかったのかと悲しみがこみ上げてきました。原子爆弾の悲惨さを知るとともに、被爆者や遺族の気持ちに思いを巡らそうと思いました。

